

212の事業をまとめました！


第5次総合計画は、平成28年から10年間のまちづくりの指針です。令和4年からの4年間で取り組む実行計画（後期実施計画）では、新型コロナウイルス感染症がもたらした新たな日常への対応と、地域循環型社会の構築という新たな視点を取り入れ、212の主要事業にまとめています。

将来に向けた4つの重点目標を掲げ、安心と幸せを実感できる、活力と魅力あふれるまちの実現に向け、取り組んでいきます。


圖みらいビジョン戦略室 ☎32-2027

4つの重点目標


1 快適で楽しい、住み続けたい街を築く




2 安心して暮らせる地域共生の社会を築く



3 持続可能な地域内循環型の経済を築く



4 教育の充実で未来を切り拓く人材を築く



もっとその先へ 誰もが輝く 拠点都市 津山を“築く”

谷口圭三市長 所信表明（概要）

私は、去る2月6日の市長選挙におきまして、住民の皆さまのご信任を賜り、2期目の市政運営を担うこととなりました。

新たな任期のスタートに当たり、改めて今後の津山の未来を切り拓くその責任の重さに身の引き締まる思いであります。

引き続き、社会情勢の変化に的確に対応し、住民が豊かさを実感しながら、地域に愛着を持って住み続けられるまちづくりを進めていかなければなりません。

これからの地域づくりでは、若者から高齢者まで多様な人材が互いに支え合う仕組みづくりや、さまざまな天災や厄災からのレジリエンス（回復力）を高めることが求められています。

地域経済の再生のためには、地域資源を最大限に活かし、自立分散型の社会を目指す「地域循環共生圏」や、自分たちのまちに愛着と誇りを持った選択と行動をすることにより、地域経済に好循環を生み出す「ローカルファースト」を実現していくことが重要です。

さらに、まちの将来を見据え、持続可能性を高めるためには、未来を担う人材の育成は避けて通れない課題であります。

私は、このまちの10年後、20年後を想い、誰もが輝く拠点都市津山を築くべく、今までの取り組みを継続・発展させ、住民の皆さまと力を合わせて、地域経済の再生と地域社会の活力創出に全力で取り組んでまいり所存でありますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



6月議会での所信表明の動画はこちら↓
所信表明する谷口圭三市長(6月6日)



1 快適で楽しい、住み続けたい街を築く

津山市スマートシティ構想（仮称）の策定 **6月補正**



デジタル技術を活用し便利で快適な生活に向け、市の将来像を示す構想を策定します

総合案内AIチャットボットの導入 **6月補正**



市ホームページ上で24時間対応するAIチャットボット(*1)を導入します

ごんごバスへのICカード決済の導入補助 **6月補正**



公共交通の利用向上のため、ごんごバスへのICカード決済の導入を補助します

河辺高野山西線（北工区）の整備促進 **6月補正**

救急搬送の時間短縮や交通の利便性向上を図るため、事業促進に努めます

城下町歴史観光まちづくりの推進 **6月補正**

市内の歴史的な文化財での宿泊事業をきっかけに、歴史観光のまちづくりを進めます

城下地区（旧国際ホテル跡地）の整備 **6月補正**

交流人口や観光客の増加を図るため、津山城の入口にふさわしい空間整備を進めます

その他

- ▶ デジタルデバイド(*2)対策の実施（スマートフォン教室など）
- ▶ 地産地消スペースをアルネ・津山に整備

*1 Web上で、自動的に問い合わせに答えるプログラム

*2 情報格差



212の事業は、持続可能な開発目標「SDGs」と関連しています。行政、企業、教育機関と目的を共有し、まちづくりの推進を加速していきます。

※後期実施計画は、市ホームページで見ることができます↓

